

LEVEL
2



朗読音声のダウンロード
Audio download

よる 夜の図書館



★読み前に Before you read

《多読の読み方》

多読とは、とてもやさしい本から楽しくたくさん読んで日本語を身につけていく方法です。
次の4つのルールを守って楽しく読みましょう。

1. やさしいレベルから読む
2. 辞書を引かないで読む
3. わからないところは、とばして読む
4. 進まなくなったら、他の本を読む



《How to do Tadoku》

Tadoku recommends that everyone should start with very easy books and enjoy a lot of them following the 'Four Golden Rules' below.

1. Start from scratch.
2. Don't use a dictionary.
3. Skip over difficult words, phrases and passages.
4. When the going gets tough, quit the book and pick up another.



やま だ
山田さんは、大学の図書館で働いて
います。

ある夜、仕事をしていると、カウン
ターから声が聞こえました。

「すみません」

でも、カウンターに、誰もいません
でした。

「変だなあ」



—1—

つぎ よる やま だ
次の夜も、山田さんは仕事をしてい
ました。

また、声が聞こえました。

「すみません」

誰もいませんでしたが、黒い本が
ありました。

「だれかが返した本かな？」 手続きを
しよう



—2—

やま だ
山田さんはパソコンをつけました。

「あれ？」

ほん
本がありません。

へん
変だなあ」

つぎ しゅう よる やま だ
次の週の夜、山田さんは仕事をして

いました。

こえ き
また、声が聞こえました。

「すみません」

だれ
誰もいませんでしたが、また、くろ
ほん
本がありました。



やまだ
山田さんは、パソコンをつけました。

「あれ？」

また、本がありませんでした。

「変だなあ」

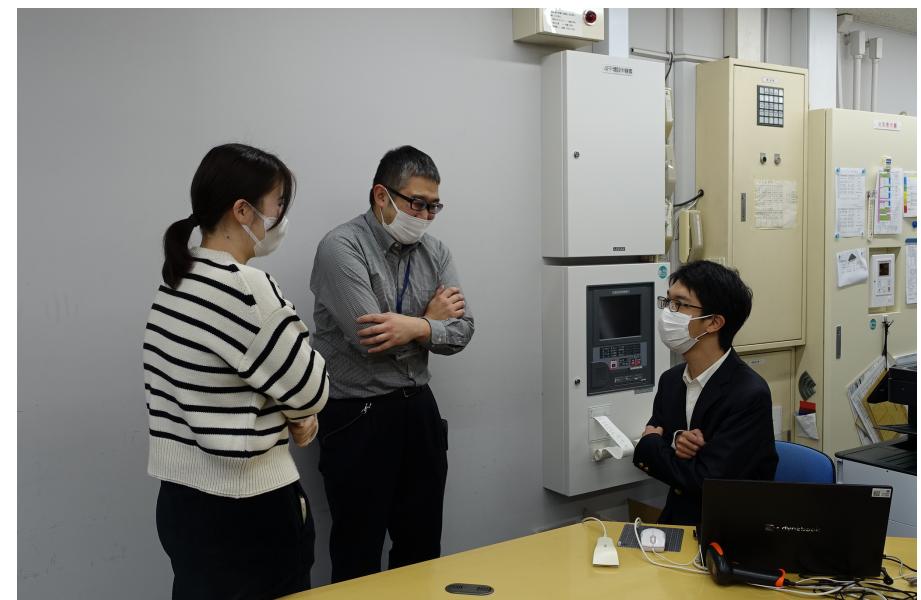
やまだ
山田さんは、怖くなりました。

そして、ほかの人に話しました。

わたし
「私も同じことがありました！」怖い
ですね」

わたし
「私もです！ あれはなん
何だったんで
しょう」

みんなは怖くなりました。



ある日、図書館に学生のお母さんが
きました。

お母さんは言いました。

「この本は、この大学の図書館の本で
すか。うちの息子の太郎が持っていました」

それはあの黒い本でした。



お母さんは言いました。

「息子の太郎は、3か月前に亡くなっ
たんです。交通事故でした。太郎の荷物の
中にこの本がありました。図書館に行き
たかったんでしょう」



やまだ
山田さんは、言いました。

たろう
「太郎くんは、本を返したかったん
だね」

やまだ
山田さんは、本を返す手続きをしま
した。

また、声が聞こえました。
「やっと返せた」

それから、夜、「すみません」の声は、
もう聞こえませんでした。





よる としょかん 夜の図書館

発行：2024年8月1日

作：和田朋也、任群、門倉未来

協力：聖学院大学総合図書館
田山恭司、飯田秀美

監修：NPO多言語多読

この作品はJSPS科研費21K00603の助成
を受けた研究のためのプロジェクトワーク
の成果物です。



この作品はクリエイティブ・コモンズ表示-非営利-改変禁止4.0国際ライセンス
の下に提供されています。

This book is licensed under CC BY-NC-ND 4.0

<https://creativecommons.org/licenses/by-nc-nd/4.0/>